

I. 第4年度(2009年度)の事業報告

1. 第4年度の経過(2009年6月～2010年3月)

|        | 全体・運営 | 子どもの村の建設・運営事業                                 |                                      | 子ども・家庭支援システム研究開発                            |   |
|--------|-------|---|--------------------------------------|---|---|
|        |       | 建設事業  | 建設・運営資金                              | 村のしくみづくり                                    | 人材研修・確保<br>・入村準備  |
| 2009年度 | 6月    | 1 後援会理事会<br>5 理事会⑥                            | 工事開始<br>現地説明                         | 9 資金部会①<br>23 資金部会②<br>16 小児科医の会発足          | 18 サポート部会①<br>21 第3期前期研修②<br>「気持ちを伝える言葉」  |
|        | 7月    | 1 認定NPO法人発効<br>10 理事会⑦                        |                                      | 7 資金部会③                                     | 16 サポート部会②<br>育親・アシスタント公募<br>18・19 合宿研修<br>「コミュニケーションワーク」<br>「クレパス画」<br>「音楽体験ワーク」               |
|        | 8月    | 8 第4年度総会<br>26 臨時総会<br>26 理事会①<br>27 チャリティ歌舞伎 | 16 福岡市との<br>土地貸借契約                   | 18 資金部会④                                    | 18 乳養協説明<br>20 サポート部会③  |
|        | 9月    | 14 常任理事会①<br>28 常任理事会②                        | 1 工程会議                               | 3 資金部会⑤<br>18 資金部会⑥<br>財務対策会議<br>設置         | 17 サポート部会④<br>4 育親説明会①<br>10 育親説明会②<br>27 第3期前期研修③<br>「子どもの心の発達」<br>「わらべうた」                     |
|        | 10月   | 14 常任理事会③<br>21 法人名称変更(登記)                    | 4 起工式<br>22 工程会議                     | 6 資金部会⑦<br>20 資金部会⑧                         | 15 サポート部会⑤<br>1 育親説明会⑤<br>9 育親説明会④<br>18 第3期後期研修①<br>「発達障害の乳幼児」<br>「身体遊び」<br>30-31 理念ワークショップ    |
|        | 11月   | 20 常任理事会④                                     | 5 工程会議<br>11 工程会議                    | 6 資金部会⑨<br>10 後援会主催<br>チャリティゴルフ<br>24 資金部会⑦ | 4 センター事業<br>リーディンググループ(WG)①<br>19 サポート部会<br>21 第3期後期研修②<br>「虐待を受けた乳幼児」<br>育親内定                  |
|        | 12月   | 4 常任理事会⑤<br>8 理事会②                            | 3 工程会議<br>現場説明会<br>12 上棟式<br>17 工程会議 | 1 チャリティ歌舞伎<br>寄付贈呈式<br>7 資金部会⑩<br>24 資金部会⑪  | 2 センター事業WG②<br>17 サポート部会⑥<br>5-6 市民フォーラム<br>20 第3期後期研修③<br>「交流茶話会」<br>開村準備チーム発足                 |
|        | 1月    | 6 常任理事会⑥<br>21 チャリティコンサート                     | 7 工程会議                               | 8 資金部会⑫<br>22 資金部会⑬                         | 14 センター事業WG③<br>28 サポート部会⑦<br>育親集中研修開始<br>4 入村準備室開設<br>17 第3期後期研修④<br>「社会的養護の子ども」<br>「歯磨き・スナック」 |
|        | 2月    | 22 常任理事会⑦                                     | 6 東南RC<br>ピアノ贈呈<br>家族の家引渡<br>開始      | 5 資金部会⑭<br>支援会員拡大<br>キャンペーン<br>23 資金部会⑮     | 2 センター事業WG④<br>22 サポート部会<br>5 育親学習会<br>12-19 オーストリア研修<br>21 第3期後期研修⑤<br>「子どもの困りごと」<br>「乳幼児の食事」  |
|        | 3月    | 1 常任理事会⑧<br>2 理事会③<br>31 竣工式                  | 26 センターハウス引渡                         | 8 資金部会⑯<br>24 JR寄付金<br>贈呈<br>24 資金部会⑰       | 4 センター事業WG⑤<br>18 サポート部会⑧<br>12-13 行動指針WS<br>17 視察報告会<br>20 第3期後期研修⑥<br>「乳幼児の実態理解」              |
| 2010年度 | 4月    | 24 開村式<br>25 開村記念講演                           | 10 植樹まつり                             | 8 資金部会⑱<br>21 資金部会⑲                         | 7 センター事業WG⑥<br>15 サポート部会⑨<br>育親入村<br>子どもの受入開始   |
|        | 5月    | 26 理事会①                                       |                                      |   | 15 センター相談事業開始<br>13 浸透のしくみづくりWS<br>20 サポート部会⑩<br>16 ボランティアの集い                                   |
|        | 6月    | 19 総会   |                                      |   |   |

|     | 子ども・家庭支援システム研究開発  |                                      | 広報・啓発  | 諸団体との連携  | 後援会             | SOS子どもの村                               |
|-----|---|--------------------------------------|--|--|-----------------|--|
|     | 地域協働  | 子どもの村ができるまで<br>デザインガイドライン作成          |  |  |                 | 国際本部                                   |
| 6月  | 17 合同検討会①<br>連絡協議会設置  | 18 検討会議①<br>19 編集部会①                 | 2 HP検討会議<br>11 HP検討会議<br>リーフレット増刷  |  | 1 理事会           |  |
| 7月  | 18 今津学習会①   | 16 検討会議②<br>30 編集部会②                 | ニュースレター<br>Vol.7発行   |  | 9 企画会議          | 定期報告<br>SOS関連施設視察<br>国際本部訪問            |
| 8月  |   | 20 検討会議③<br>17 編集部会③                 | 11 プレス発表<br><br>27 博多座募金活動   |  |                 | 建設申請書提出                                |
| 9月  | 12 今津学習会②<br>26 今津子育てMAP<br>編集会議                              | 17 検討会議④<br>29 編集部会④                 | チャットーム募金活動<br>(2回)   |  |                 | 10 申請書受理連絡                             |
| 10月 | 26 中津聖ヨゼフ寮見学  | 15 検討会議⑤<br>20 編集部会⑤<br>26 中津聖ヨゼフ寮取材 |  | 1 市民フォーラム実行委④<br>12 新しい絆フォーラム<br>「地域と里親」<br>26 市民フォーラム実行委⑧ | 8 企画会議          |  |
| 11月 | 12 連絡協議会①<br>15 今津学習会③<br>22 今津人形芝居                           | 9 編集部会⑥<br>22 現地取材                   | 新リーフレット<br>製作<br>ニュースレター<br>Vol.8発行<br>HPリニューアル                          | 1 虐待防止キャンペーン<br>14 FH協議会<br>プレシンポジウム<br>19 市民フォーラム実行委⑥     | 10 チャリティ<br>ゴルフ |  |
| 12月 | 3 今津保育園<br>今津小学校訪問<br><br>22 今津学習会④                           | 9 編集部会⑦<br>17 検討会議⑥<br>22 現地取材       |  | 5・6 市民フォーラム<br><br>「子どもに<br>やさしい<br>まちづくり」                 |                 |  |
| 1月  | 8 子育てMAP<br>編集会議<br>11 今津11日まつり<br>30 今津学習会⑤                  | 27 建築ワークショップ                         |  |  | 29 企画会議         | 20 定期報告                                |
| 2月  | 21 地域子育て講座  | 3 編集部会⑧<br>23 検討会議⑦                  | ニュースレター<br>Vol.9発行   | 27 フォーラム新しい絆<br>「家族をつくる」                                   |                 | 12-19 視察研修                             |
| 3月  | 6 子育てMAP編集会<br>6 連絡協議会②<br>11 子育てMAP編集会議<br>27 村見学会<br>(地域対象) | 9 編集部会⑨<br>18 検討会議⑧                  | 16 市政記者クラブ開村リリース<br>17-18 博多駅前PR<br>20-21 天神街頭キャンペーン<br>20-21 マリンメッセ募金活動 |  | 2 企画会議          |  |
| 4月  |   | 2 編集部会⑩<br>15 編集部会⑪<br>30 検討会議⑨      | 11 天神街頭PR<br>14-15 博多駅前PR<br>23 開村プレ記者レクチ                                |  | 15 企画会議         | SOS-KDIアジアセンター<br>代表来日<br>24 SOS-KDI協議 |
| 5月  |   | 7 検討会議⑩                              | ニュースレター<br>Vol.10発行  | 17 福岡市虐待<br>防止活動推進<br>の集い                                  |                 |  |
| 6月  |   | 「子どもの村ができるまで」発行                      |  |  | 1 第4回理事会        |  |

## 2. 第4年度の事業概要

第4年度の事業の概要を、定款に掲げる事業項目に沿って報告する。

### (1) 子どもの村の建設・運営事業

第4年度はほぼ1年かけて建築工事が進み、2010年3月末、「家族の家」5棟とセンター棟よりなる子どもの村が完成した。「社会的養護の子どもたちが育つ環境と人材」を追求した子どもサポート部、建築資金の確保に奔走した資金部を中心に、組織の総力をあげた大事業であった。数々の困難はあったが、後援会をはじめ多くの企業、団体、市民に支えられて、NPOの手による「子どもの村」の実現に、いま、大きな社会的関心が寄せられている。

子どもの村の開村に向けては、子どもの村の管理・運営のあり方、育親の共同養育体制の検討、センターハウス機能をはじめ開村後の支援体制の準備を進めてきた。

こうしてよいよ4月、子どもたちを迎え、子どもの村の新しい生活がはじまった。

### (2) 社会的養護の子どもと家庭への支援・システムの研究開発事業

開村を目前に控え、現実的な課題として、子どもサポート部を中心に次のことに取り組んだ。

- ▶ 子どもの村の管理・運営、組織づくりと育親の共同養育体制の検討
- ▶ 子どもの村センターハウス事業の企画、事業開始の準備
- ▶ 子どもの村の人材養成・確保、ボランティアの登録
- ▶ 子どもたちを迎える「家」の準備、里親登録、子どもとの交流の開始
- ▶ 地域との協働、子育て支援の開始

育親はじめ子どもの村スタッフと理事の合同のワークショップを行い、子どもの村福岡の理念、行動指針を自分たちの言葉で編み出したことは、今後に向けて力強い共通基盤ともなった。

### (3) 子どもの社会的養護に関する情報提供・啓発事業

社会的養護に関する理解を広げること、それを通して社会的支援を広げingことを役割として、広報活動が進められた。ニュースレターやリーフレット、ホームページの制作、そして街頭募金活動はとくに活発に取り組みされた。子どもの村の建築が進むにつれてメディアによる取材が活発になり、社会的養護の内容をどのように報道するかが課題となってきた。それに関して、取材に受身でなく、協働のパートナーとしての関係をメディアと築いていくことが課題となってきた。

#### (4) 子どもに関わる個人・団体・企業・その他関係機関などとの連携

子どもの村福岡設立のきっかけとなり、社会的養護分野のネットワークともいえる「ファミリーシップふくおか」、さらに幅広く、子どもの権利の実現をめざす「子どもにやさしいまちづくり」ネットワークへの参加で図ってきた。いずれも子どもの村福岡をアピールし、「社会的養護の社会化」をはかり、「あらゆる子ども」へのメッセージを波及させる上で大切な場となっている。

##### 子どもの村福岡を支える後援会などとの連携

「子どもの村福岡を設立する会後援会」は、子どもの村建設の強力な後ろ盾になっていただいただけでなく、行政、企業をはじめ社会的支援を広げる上で大きな影響を与えた。また、本年6月1日の理事会において、子どもの村の開村後も、「子どもの村福岡後援会」として引き続き側面的な支援を続けていただくことが決定された。

「子どもの村福岡を支援する小児科医の会」の存在も、子どもに関する専門分野に、子どもの村の理念を伝える上で大きな力となった。

今後、開村後の運営を確かなものにしていくためにも、また社会的養護の「社会化」を進めていくためにも、さまざまな分野に連携のパートナーを広げていくことは重要な課題になっている。

#### (5) SOS子どもの村国際本部との連携

- ▶ 2009年7月、子どもサポート部として、2010年2月、子どもの村育親などスタッフ研修として、オーストリアのSOS子どもの村と家庭教育専門カレッジなどを視察、また国際本部を訪問した。
- ▶ 2010年4月、国際本部アジアセンター事務局長が開村式へ出席、翌日開村記念講演会で講演した。
- ▶ 開村式の日、アジアセンター事務局長との協議の場がもたれ、2012年の国際大会を目標にSOS子どもの村の国際組織に正式加盟することが提案された。
- ▶ これを受けて、子どもの村福岡として第5年度の総会において確認し、それにいたるロードマップを策定することとなった。

### 3. 事業報告

#### (1) 子どもの村の建設・運営事業

##### 1) 建設プログラムの着実な推進

子どもの村の建設工事は、前年度末までにほぼ固まった工事計画を基に策定した工程表に沿って進めた。

- ▶ 2009年6月に後援会の支援決定を経て、工事の発注先を慎重に検討した結果、外構・造成工事及びセンターハウス並びに家族の家2棟について(株)ナカノフドー建設・(株)九電工に決定した。これにより、既に決定していた家族の家1棟寄贈のタマホーム(株)、家族の家2棟工事協力のトヨタホーム(株)・トヨタホームつくし(株)と合わせ建設工事の体制が整った。
- ▶ 2009年8月に入り、福岡市と土地賃借に関する契約書を取り交わしたことから、8月中旬から本格的に工事に入ることとなった。以後、設計・管理をお願いしている(株)田島正陽建築事務所、施工会社、並びに当NPO法人で構成する工程会議を定期的を開催して工事の進捗を図ってきた。
- ▶ 土地造成が終了して2009年10月4日、多くの関係者出席のもと起工式を挙行、まずはセンターハウスの建築に着工した。
- ▶ 12月12日、センターハウスの上棟式を多くの地域の方々と子どもたちを招いて行った。
- ▶ 加えて12月に入って家族の家の建築も開始、センターハウス、家族の家5棟の建設が同時進行することとなった。
- ▶ 2010年に入り天候不順な時期もあって、工事の進捗に支障をきたすこともあったため、工事に若干の遅れが出たものの、3月下旬になって工事は終了、3月31日竣工式を行って、多くの関係者、支援していただいた方々にお披露目を行うことができた。
- ▶ 続いて4月に入って、広場づくり、緑化作業を進めた。4月10日には好天の下、多くの樹木寄贈者、地域の人、ボランティアの参加を得て植樹祭を行った。
- ▶ その後必要な什器備品等の設置を進めて子どもの村は完成するに至り、4月24日開村式を迎えることになった。

## 2) 建設資金の確保

- ▶ 子どもの村の建設資金について、2009年6月後援会に支援を決定していただいた時点では、家族の家は4棟でスタートする前提で建設費を計上した。しかしその後、福岡県の小児科医の会が家族の家1棟について支援していただくことが確実となったため、発注先を決める段階で家族の家は当初の計画通り5棟で建設を始めることとした。
- ▶ このため、建設費予定額を再計算した結果、155,000千円（英進館、小児科医の会支援を含む）となり、この資金調達を図るべく周到な計画を立てると共に、積極的な支援・協力を広く呼びかけた。加えて進捗状況をきめ細かくフォローして資金確保の進展に努めた。同時に、工事の進行の中では、可能な限り費用の低減にも意を用いた。
- ▶ この結果、小児科医の会より目標通りの支援金をいただくことができたのに加え、多くの個人、企業・団体から前年度を大きく上回って、ほぼ目標額レベルの寄付をいただくことができた。
- ▶ 追加工事や予定外費用もあって、最終的には建設費が予定額を超過したものの（158,000千円）、調達資金額（163,000千円）の範囲内に支出を止めることができた。
- ▶ なお、実際の工事に際しては、多くの企業より資材、建具等の提供に加えて施工会社から工事費での多額の協力もいただいた（金額にして77,000千円）。これらを含めて総工費は235,000千円となった（次ページ参照）。

今回の建設資金の確保においては後援会の役割が極めて大きかった。多額の支援金（寄付金）とともに資機材の提供にも多大なご協力をいただいた。子どもの村の建設において後援会は不可欠の存在であった。

### 3) 子どもの村の管理・運営体制の検討、組織づくりと準備

- ▶ 子どもの村の管理・運営体制、NPO法人本部との連携のあり方などを検討、開村に備えた。
- ▶ 地域との関係では「今津・子どもの村福岡連絡協議会」の設置と開催、そして、公民館を拠点とした地域子育てネットワークへの参加と「子育てハンドブック」の共同制作をした。開村を目前に控え、現実的な課題として、子どもサポート部を中心に次のことに取組んだ。
- ▶ 子どもの村を支える村長・育親・育親アシスタント・センター職員の確保と研修、ボランティア研修と登録を行った。

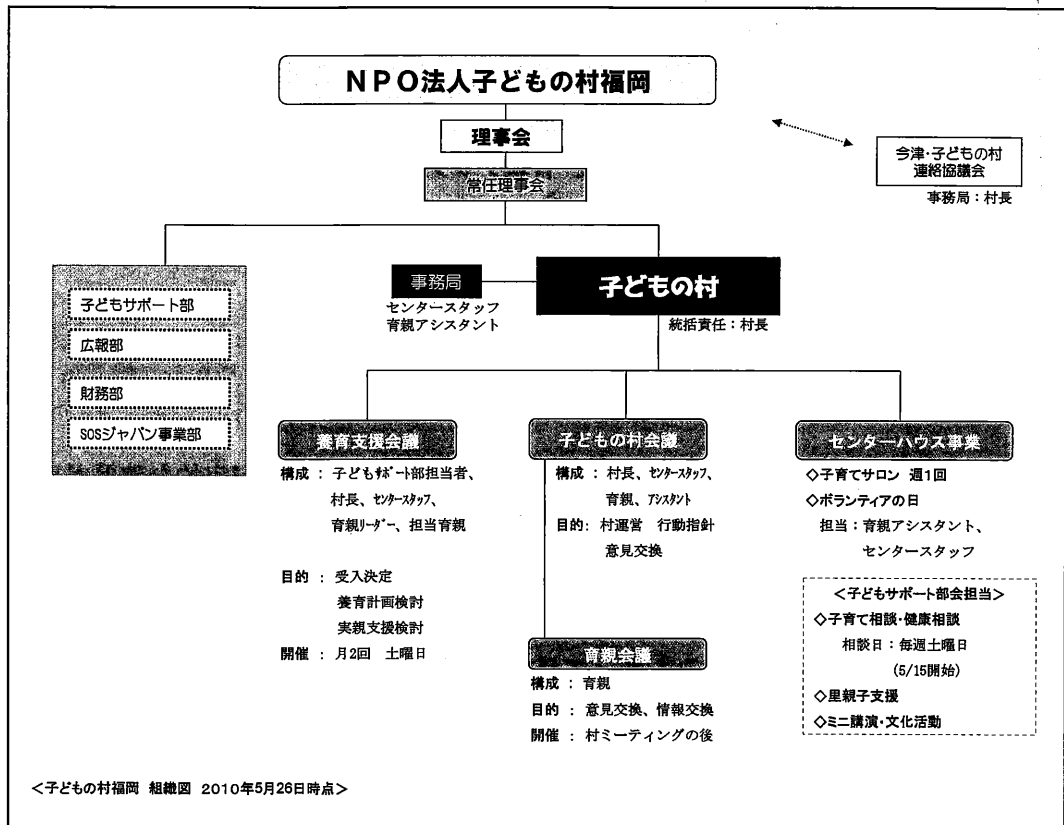
### 4) 運営資金づくりの取組み

- ▶ 2010年4月の子どもの村開村後の運営資金については、安定的な確保が重要であるとの認識から、2009年度中に初年度の運営資金を確保するとの考え方で進めてきた。しかしながら2009年度は建設資金の確保が最優先であったため、運営資金の積立は殆どできなかった。これは支援会員からいただく寄付(支援寄付)が、支援会員数の伸び悩みもあって目標を下回ったことも一因である。
- ▶ ただし、年度末になって九州旅客鉄道株式会社より、運営資金用として多額の寄付をいただいたことから、運営資金づくりに弾みをつけることができた。
- ▶ 今後、運営資金の安定的な確保のためには、支援会員の格段の増強と支援寄付の継続収受が重要課題である。

## (2) 社会的養護の子どもと家庭への支援・システムの研究開発事業

### 1) 子どもの村の管理・運営、組織づくりと育親の共同養育体制の検討

- NPO法人子どもの村福岡と子どもの村の組織、役割等の検討を行った。
- センターハウス機能をはじめ開村後の支援体制の準備を行った。



### 2) 子どもの村センターハウス事業の企画、事業開始の準備

- 「里親・里子への心理的ケアと実親支援のプログラム開発プロジェクト」が朝日厚生文化事業団の子どもへの暴力防止プロジェクト助成事業として採択された(2009年11月～2011年10月)。
- 里親支援プロジェクト・ワーキンググループを作り、里親子支援プログラム・実親支援プログラムの検討を行い、センターハウス事業(子育て相談・健康相談、子育てサロン、レスパイトケア、実親支援等)の計画・準備を行った。

3) 子どもの村の人材養成・確保、ボランティアの登録

①第3期前期研修(2009年5月～9月)

毎回研修には、1時間のグループディスカッションを設けた。参加：のべ142名

| 日程            | 研修内容(講師)  |
|---------------|---|
| 5月17日         | 「乳幼児から学ぶこころの土台」 渡邊久子(慶応義塾大学医学部 小児科医)<br>「こどもと遊ぶわらべうたⅠ」 大屋省子(声楽家)  |
| 6月21日         | 「気持ちを伝える言葉」<br>「ことばで遊ぶ・かかわる」 濱崎けいこ(劇団「二人の会」女優)  |
| 7月18日<br>～19日 | 「気持ちを感じる、気持ちを伝えるコミュニケーションワーク」<br>岩橋由莉(表現教育家)<br>「気持ちを描くクレパス画」 小川直美(クレパス画家)<br>「相手の声を聴く、自分のこころを聴く～音楽体験ワーク」<br>溝上由紀子(音楽療法士) |
| 9月27日         | 「子どもの心の発達」 山田真理子(九州大谷短期大学教授)<br>「子どもと遊ぶわらべうたⅡ」 大屋省子(声楽家)  |

②第3期後期研修の実施(2009年10月～2010年3月)

毎回研修には、1時間のグループディスカッションを設けた。参加：のべ153名

| 日程     | 研修内容(講師)   |
|--------|--|
| 10月18日 | 「発達障害の乳幼児を育てる」 宮崎千明(福岡市立西部療育センター所長)<br>「親子のできる身体遊び(日常生活における感覚統合)」<br>濱中真美(NPO法人なごみの杜 作業療法士)        |
| 11月21日 | 「虐待を受けた乳幼児への関わり」<br>山崎知克(浜松市発達医療総合センター 児童精神科医)<br>「SOS キンダードルフと子どもの村福岡」<br>山本裕子(西南学院大学人間科学部社会福祉学科) |
| 12月20日 | 「子どもの村開村に向けて 交流茶話会」  |
| 1月17日  | 「社会的養護の子ども健康課題」 安元佐和(福岡大学医学部 小児科医)<br>「乳幼児の歯磨き・スキンケア」 中山恵美子(福岡市保健福祉局 歯科医)                          |
| 2月21日  | 「大人の困りごとは子どもの困りごと」 平田ルリ子(清心乳児院 院長)<br>「楽しく食べる乳幼児の食事」 早瀬仁美(福岡女子大学教授)                                |
| 3月20日  | 「乳幼児の実親への理解」 松崎佳子(九州大学大学院教授)   |

### ③内定者への集中研修

- ▶ 内定者専門研修を実施すると共に、乳児院での実習、オーストリア国際本部の研修機関である家庭養育カレッジ視察および子どもの村において、現地のマザーたちとの交流研修を行った。
- ▶ 育親・育親アシスタント・センタースタッフと子どもサポート部を中心とした理事との合同ワークショップ研修会を行い、子どもの村福岡の理念、行動指針を明確にした。

### ④人材確保

- ▶ 育親、育親アシスタント、センタースタッフについては、2008年度第2期研修時から相談面接日を設置し、希望者について面接を行ってきた。2009年度は、それらに加えて、8月より公募を開始し、人材募集説明会の開催を4回実施し参加者は41名であった。
- ▶ 応募者は、育親20名、育親アシスタント23名、センタースタッフ9名あり、採用面接を全17回、のべ80名に実施し、育親3名、育親アシスタント3名、センタースタッフ1名を採用した。
- ▶ 育親については、希望者と子どもの村とのマッチングが難しく結果的に残り2名(組)の採用は、2010年度の重要課題となっている。

### ⑤継続的な育親研修プログラムの検討

2007年度から2009年度まで実施してきた人材養成研修(34回)を総括するとともに、小規模住居型児童養育(ファミリーホーム)事業者研修プログラムの開発を目的とした養成プログラムを検討した。このプログラムは、(独)福祉医療機構 平成22年度社会福祉振興助成事業として採択された(2010年4月～2011年3月)。

## 4) 子どもたちを迎える「家」の準備、里親登録、子どもとの交流の開始

育親・育親アシスタント・村長の内定者による入村準備チームを作り、住まい方シミュレーション、物品の準備、地域との交流など入村準備を行った。

育親は、福岡市の里親研修も受講し、里親登録を行った。その後、福岡市児童相談所との連携のもと、里子候補児との交流を始め、子どもの受け入れ準備を行った。

## 5) 地域との協働、子育て支援の開始

### ①今津・子どもの村福岡連絡協議会の設置

子どもの村建設が円滑に進み、今津地域と子どもの村福岡の発展が共に図られることを目的に「今津・子どもの村福岡連絡協議会」（会長 坂本雅子）を設置し、会議を3回実施した。

### ②子ども子育て ハンドブック作成（トヨタ財団助成事業）

公民館を中心とした「今津の子ども・子育てを考える学習会」に子どもの村福岡として参加し、共同で「子どもが育つまち 今津再発見」を制作した。

## 6) 子どもの村の「理念」と「行動指針」をつくるワークショップ

理事、サポート部会、村のスタッフによる2回の合宿ワークショップで、私たちのめざすものとしての「理念—すべての子どもに愛ある家庭を—」と、この1年間の行動指針「ともに歩む」をまとめた。理念は、開村前の記者レクチャーや、開村式のなかで発表した。行動指針は、この1年間の指針として、生かしていく。

## 7) 子どもの村・建築デザインガイドラインの作成（年賀寄附金助成事業）

- ▶ 「社会的養護を必要とする子どもたちを育てる環境をモデルとするデザインガイドラインづくり」を目的として、子どもの村の建築をどのように構想し、完成に至ったかのプロセスをまとめた。わが国で制度化されたファミリーホームのあり方、一般の子どもが育つ家や地域のあり方について提言できるものを目標にして作業を進めた。
- ▶ NPO法人九州コミュニティ研究所に編集委託をして進めているが、開村式が年度を越えて開催されたため、郵便事業㈱の了解を得て2010年度に入ってから発行となる。

### (3) 子どもの社会的養護に関する情報提供・啓発事業

#### 1) 広報活動

- ①ホームページのリニューアル
- ②ニュースレターの発行（年3回7月・11月・2月 各4,000部）
- ③広報ツール・グッズの開発
  - ・団体リーフレットリニューアル版（20,000部）
  - ・センターハウス案内リーフレット（500部）
  - ・子どもの村理念ハートブック（マスコミ配布資料として50部）
  - ・缶ストラップ（4,000個）
  - ・啓発ビラ（募金時配布16,000枚）
  - ・プレゼン用資料、団体パネル、ポスター等の作成

#### 2) 募金活動

- ▶ 博多の森、ヤフトーム、マリンメッセ、西鉄福岡駅、博多座、博多駅などで街頭募金（計19回）
- ▶ 募金箱設置（70ヶ所）
- ▶ 「支援会員拡大キャンペーン」3月20～21日、理事とボランティアが一丸となり、マリンメッセ、西鉄福岡駅周辺において集中募金活動を行った。

#### 3) マスコミと対応

- ▶ 子どもの村広告記事の掲載（3月22日西日本新聞）
- ▶ 開村に向けての動きに合わせて新聞広告を出しPRした。広告記事掲載の直後は、問い合わせが集中し、会員や寄付金、募金箱の設置などにつながった。
- ▶ 竣工式、植樹祭、開村式など一連の動きをプレス発表し、当日に向けて準備をすすめた。
- ▶ 日本初の試みとあってメディアからの取材が急増。朝日新聞や西日本新聞、読売新聞など、特集記事として紹介された。

これらの広報活動で、社会的養護の問題や子どもの村の理念への共感と支援が広がった。広報部の役割はますます大きいため、体制面での抜本的な強化を図る必要がある。来期は、ホームページの充実をはかり、支援に結びつくための情報を発信していく。また、社会的養護の課題を効果的に社会にアピールするために、「メディアとの協働」の考え方を持って取り組んでいく。

なか、それに対応するプログラムの開発と人材研修が進んでいることを学んだ。副理事長、専務理事は国際本部を訪問、開村後の国際本部への加盟、連携について話し合った。

3) 開村式への出席 (4月24日)・記念講演会 (4月25日) での講演

国際本部からアジアセンター事務局長シッダールタ コウル氏が来日、開村式での挨拶、記念講演会での講演「すべての子どもに家庭を〜SOS子どもの村」を行った。

4) 国際本部との協議 (4月24日)

出席：アジアセンター事務局長・子どもの村福岡常任理事 (通訳：森山大輔氏)

国際組織への正式加盟に向けての協議を行い、2012年の総会までに、正式協定を結ぶ方向への提案を受けた。そのために、安定的な資金見通しのロードマップをつくること、目標到達に関するレポートを年2回提出し、評価を受けることなどが提起された。

これを受け、5月1日の常任理事会は、総会に国際組織加盟の提案を行うことを確認した。

(6) 社会的支援による資金づくり

地道な広報活動やマスコミ対応の努力で、社会的養護の問題や子どもの村の理念の理解が深まった。一方、「子どもの村福岡を設立する会後援会」の存在は、さまざまな社会的支援の輪を広げる大きな柱となった。

子どもの村福岡の建設は、市民・行政・企業が一体となって進められたプロジェクトで、わが国の社会的養護の歴史に新しい1ページを記すモデルとして注目を集めている。

今後の課題は、子どもの村運営資金の安定的な確保である。そのためには、広く社会に支援を呼びかけ、支援会員の拡大や寄付活動などへの抜本的な取り組みが急務であり、後援会との連携も益々重要になってくる。

1) 後援会などとの連携

「子どもの村福岡を設立する会後援会」

- ▶ 開村に向けた資金づくりは、後援会と資金部との連携で進められた。
- ▶ 後援会によるセンターハウスの建設資金および資材の提供により、一気に村建設が目標に向かって動き出した。この後援会による支援が大きな力となり、子どもの村建設の実現につながったと言える。

- ▶ さらに企業団体への支援会員の拡大や寄付募金活動に強力な力を発揮した。
- ▶ また、福岡経済人の参加によるチャリティ歌舞伎、チャリティゴルフをはじめ、チャリティコンサートなどチャリティイベントについての協賛、後援は大きな支援となった。

### 「子どもの村福岡を支援する小児科医の会」

2009年6月、「子どもの村福岡を設立する会後援会」が建設支援を決定された時点では、「家族の家」は4棟という前提であったが、その後、福岡県内の小児科医のなかで「5棟目を小児科医の手で」との呼びかけが起き、急速な盛り上がりの中で資金が集められ、最終的に5棟の「家族の家」が実現するに至った。この会は、建築完成後も引き続き運営を支援する会として引き継がれている。

## 2) 市民・企業・団体の支援

新聞、テレビなどの報道により、社会的養護の子どもたちや子どもの村福岡への理解が深まるにつれて、市民・企業・団体の支援の輪が広がってきた。

- ▶ 国際ソロプチミスト・ロータリークラブ・ライオンズクラブ・商工会議所など様々な団体から卓話に招かれ、支援会員の申込みや多くの寄付がよせられた。
- ▶ 店舗など店頭募金箱やコココーラ支援自販機の設置場所が拡大された。
- ▶ 博多の森球技場、JR博多駅、西鉄福岡駅、ヤフードームなどでリーフレットの配布や募金活動が実施された。
- ▶ 飛躍的な支援会員の広がりをめざして、2月～4月の3ヶ月間「支援会員拡大キャンペーン」が展開された。
- ▶ 活動が集中的に取り組まれた期間は、通常を大きく上回る支援の拡大が得られることが分かった。

## 3) さまざまなチャリティイベントの実施

- ▶ (財)日本財団の助成による第3回チャリティコンサート「高嶋ちさ子と愉快的仲間たち」がアクロス福岡シンフォニーホールで開催された。
- ▶ 昨年に引き続き、福岡の財界人によるチャリティ歌舞伎が8月に博多座で開催され、収益金の一部を寄付していただいた。
- ▶ 後援会との共催で、第2回チャリティゴルフコンペが11月に伊都ゴルフ倶楽部で開催された。ロータリークラブや地元企業から31組120名の参加をいただき、収益金を寄付いただいた。
- ▶ 国際ソロプチミスト福岡一南による「春風亭小朝チャリティ寄席」がエルガーラホールで開催され、収益金が寄付された。

4) 助成財団からの支援

(千円)

| 助成元       | 助成事業テーマ                                    | 金額    | 事業期間            |
|-----------|--|-------|-----------------|
| トヨタ財団     | 社会的養護を要する子どもを共に育てる地域づくり                    | 5,840 | 2009.4-2011.3   |
| 年賀寄附金配分事業 | 社会的養護を必要とする子どもたちを育てる環境をモデルとするデザインガイドラインづくり | 4,000 | 2009.6-2010.3   |
| 朝日厚生文化事業団 | 里親・里子への心理的ケアと、実親支援のプログラム開発プロジェクト           | 3,500 | 2009.11-2011.10 |

5) 会員のひろがり

2009年度の個人会員の加入目標数は、大幅に下回った。要因としては、決算年度の変更(1期10ヶ月)によることと、個人支援会員に継続支援をお願いする際に、「支援寄付」と「支援会費」の区別の理解に時間がかかり、納入の遅れが目立ったことが挙げられる。ただし、新規の個人支援会員は増加している。

支援会員の推移

(数字は年度末のカウント)

| 年度     | 2006 | 2007 | 2008 | 2009実績 | 2009目標 |
|--------|------|------|------|--------|--------|
| 個人正会員  | 54   | 59   | 56   | 48     |        |
| 団体正会員  | 1    | 13   | 16   | 17     |        |
| 個人支援会員 | 68   | 324  | 852  | 1,041  | 1,350  |
| 団体支援会員 | 5    | 62   | 244  | 253    | 260    |

<対策>

- ・加入促進のためのリーフレット、チラシ、HPの活用強化
- ・継続加入・新規加入の促進キャンペーンの実施(新聞広告、募金活動など)
- ・支援企業の加入促進強化(企業訪問・卓話・チャリティイベントなど)